

解答

一

問一 ① 心境 ② 夢 ③ 判断 ④ 務 ⑤ 傷 ⑥ 大興奮 ⑦ 立派

問二 イ

問三 不安（「心配・不満」なども可）

問四 ウ

問五 （2）は、タツキのやる気を失わせるようなことを言ったことを反省し、タツキが許してくれてうれしいという気持ち。（4）は、クラスのみんなから院長として認められてうれしい気持ち。

問六 人一倍、修学旅行を楽しみにしていたが、（：）（：）浮かれることなく、きちんと委員長としての役目を果たすこと。

問七 C：ア D：オ（順不同）

問八 人のいいところを認めようとせず（：）嫌なところばかり見ていては、社会に出たとき、いろいろな人によりよい人間関係を築くことができないから。

問九 人に頼らず、自分で考えた率直な

問十 イ

問十一 イ

二

問一 ① 劇場 ② 美術 ③ 荷物 ④ 祖母 ⑤ 重宝 ⑥ 無機質 ⑦ 創造 ⑧ 費用

問二 明るすぎることの良さを見出すことができない上に、食文化と同じで、ただ明るいという両より明るさの質の方が重要視されるようになったから。（六十七字）

問三 エ

問四 蛍光灯のように、照明は明るければ明るいほどよい、という考え方が日本人の間に刷り込まれたということ。

問五 イ

問六 C：オ D：エ E：ウ

問七 オフィスのくっし目標値

問八 日本人は、節電を経験したことによってほの暗い照明に落ち着きやくつろぎを感じ、明るすぎないことへの価値を理解し、求めるようになってきているから。

問九 3

解説

一

問八 テツヤ先生の「やめさせるのは簡単や。」「社会に出ればくやる気を引き出してやることを考えてみたらどうや。」という言葉から考えます。社会に出ればいろいろな人がおり、何事を成すにも、よい人間関係を築くことが大切になってきます。人の嫌なところを拒否することは簡単であり、人のいいところを引き出すことは難しいことです。しかし、テツヤ先生は、タツキたちに、そういうことができる人になってほしいと願っているのです。

二

問二 「合点がいかない」とは「納得することができない」という意味です。筆者は、照明のあり方は食文化と同じで、「明るければ明るい方がよい」という「量」よりも「味わいのある、おいしい光」といった「質」の方がよく、現代の日本人は、「量」よりも「質」を求めるようになってきている、といった考え方なので、納得がいかないのです。「現代日本に暮らすく」以降の文章の言葉も用いるとよいでしょう。

問四 「蛍光灯」が「日本の家庭を支配」とは、蛍光灯はすばらしいものである、蛍光灯は日本の家庭になくてはならない、といった考え方が日本人の間に植えつけられた、ということです。